

みらいん

2013
7月



同じ境遇、思いを分かち合う かけがえのない仲間たち

移転予定地の周辺ガイド
これから住む「まち」

まちの語り場／住まいのコラム／被災地レポート
続ける支援／読者からひとこと／表紙のひと／記憶の写真館

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



仙台港背後地住宅地区

今後の住まいの選択肢として、防災集団移転促進事業による移転や、復興公営住宅への入居などがあります。ここでは、皆さんの入居に向けて整備が進められる地区の様子と、周辺にお住まいの方の声をお届けします。



利便性の高い人気地区

近年まで田園が広がっていた仙台港背後地住宅地区を含む宮城野区中野一帯の広大な土地。住民たちは、一九六〇年代頃までこの地域を甲、乙、丙(区)と呼び、親しみを感じていました。しかし仙台港整備のために集落の移転統合が進められ、歴史の面影は見つかりにくくなっています。仙台港背後地住宅地区内にある甲区町内会は、仙台東部道路仙台港IC周辺の地域名でしたが、そこから移転した方々が引き続き元の地域名を町内会名にするなど、現在も郷土への愛着が垣間見られます。地区内に点在する防災集団移転促進事業用の募集宅地二十五区画のうち、二十三区画について決定が通知され、順次契約、引き渡しの段階へ進んでいます。郊外型商業施設が立ち並ぶ地区周辺は、週末を中心ににぎわいが生まれ、更なる発展を遂げようとしています。最寄りのJR仙石線陸前高砂・中野栄駅から仙台駅までは約二十分の距離となっているほか、昨年十二月に供用開始した仙台港ICは目の前と、立地条件の良さも特徴です。

まちの施設

買い物する商業施設、運動・各種講座などに利用する公共施設が近く、住み良い毎日を送れるのが仙台港背後地住宅地区の魅力です。



高砂市民センター 高砂児童館

宮城野区高砂1-24-9
022-258-1010
開館時間/9:00~21:00
休館日/月曜日・祝日の翌日

コンサートなど、気軽に皆さんが集うことが出来る行事を数多く実施しています。被災した高砂地区の復旧復興のために支援事業を行っているほか、傾聴ボランティアの養成にも注力中。毎年10月の祭りでは地域の連帯感を深めています。



みやぎ生活協同組合高砂駅前店

宮城野区高砂2-2-5
022-387-1711
営業時間/10:00~22:00
(日曜日・祝日は9:00~)
休業日/無休

共働き世帯や高齢の方の生活様式に配慮し、調理の手間を省ける惣菜などの品ぞろえを強化しています。入口付近で扱う岡田地区契約農家の野菜も好評です。2階の集会所は、地域活動などに使われています。



中野栄あしぐろ保育所

宮城野区中野字葦畔180
022-254-2555
開所時間/7:00~19:00
対象/生後8週~小学校就学前児童

「支え合う心と生きる力を共に育む」を理念として、2005年設立。地域の方々との交流事業も盛んです。「一時預かり(一時保育)」、「早朝・延長保育」のほか、地域子育て支援として、自由来園を通じて育児相談などにも対応しています。



仙台市出花体育館

宮城野区出花1-13-7
022-786-3446
開館時間/9:00~21:00
休館日/年末年始、月1回の点検日(不定期)

競技場の使い勝手の良さが特徴で、会議室も貸し出しています。地域の方に向けては、アンチエイジングやヨガなどの教室を開講しています。仙台89ersのプロコーチが指導するバスケットボールスクールでは生徒を募集中です。

まちに住むひと

仙台港背後地土地区画整理事業によって景色は様変わりしましたが、伝え継いでいきたい人々の支え合いの精神は残っています。



小幡光男さん

甲区町内会長

「仙台港背後地土地区画整理事業により、元の町内の全世帯が地区内移転してきました。秋には雷神社で子ども会と芋煮会を共催。新たに町内会に加入された方々にも積極的に活動頂いています。公園で子どもたちが元気に遊ぶ姿が見られる閑静な住宅地です」



菊田信さん

沼向町内会長
立華学園 立華幼稚園園長

「住民の半数は仙台港背後地土地区画整理事業による沼向や竹ノ内地区からの移転者で、皆が将来に向けて地域の発展を期待しています。3~4世代世帯が多く、各家庭内で支え合っていることが特徴で、更なる地域の連帯強化を呼びかけています」



佐藤啓子さん

宮城野区高砂第二地区
民生委員・児童委員

「福祉委員の方と協働して、高砂地区社協小地域ネットワーク活動の一環で毎年2回(5月、10月)行う『いきいきサロン』のお世話をさせていただいています。行事などに積極的に参加して、地域に早くとけ込んでいただければと思います」



北條幸男さん

高砂老人福祉センター館長
(兼)高砂デイサービスセンター所長
(兼)高砂地域包括支援センター所長

「皆さま一人一人へのお声かけ、コミュニケーションをスタッフ一同大切にしています。健康づくり、人と触れ合う場としてどうぞご利用ください。皆さんがこの地域で安心して楽しく暮らせるよう、お手伝いさせていただきます」

まちに住むひと

由緒ある鹿野エリアに住む方々は、故きを温ねて新しきを知る「温故知新」の心を大切に生活しています。新たに移り住む方も安心できるまちです。



伊藤文夫さん

鹿野地区連合町内会会長
鹿野町内会会長

「鹿野地区連合町内会は、私の所属する鹿野町内会を含めた11の町内会で構成されています。まちの人は皆アットホームで、面倒見の良い方ばかり。もし困ったことがあれば、些細なことでも良いのでご相談ください」



亀岡留美子さん

鹿野児童館館長
特定非営利活動法人
MIYAGI子どもネットワーク代表理事

「18歳までの子どもたちが利用する児童館ですが、地域の幅広い年代の方々も活用できる交流施設となっています。イベントなども行いながら、地域に住む親子のコミュニケーションづくりに貢献しています」



岡田公稔さん

太白区鹿野地区社会福祉協議会会長
太白区鹿野地区民生委員・児童委員

「私たちは東日本大震災を機に、地域住民との連絡網を強化すると共に、75歳以上の要援護者への防災対策に尽力しています。普段からのおつき合いを大切に、新たに移転されてくる方たちとも早く打ち解けたいと思います」



日塔光博さん

長町中学校校長

「学校では、地域と協働しながら、地域のために行動できる生徒を育てようとしています。昨年度は学校行事の中で、地域の方々の協力を得た防災訓練を行いました。今後もこのような地域に即した教育を続けていきたいです」

まちの店・施設

交通の便に優れた地区内は、国道沿いの大型店舗のほかにも、地域に密着した昔ながらのお店が並びます。緑の多いつろげるエリアとなっています。



鮮魚 菊地屋

太白区鹿野1-7-12
022-248-0586
営業時間/11:00~18:30
定休日/日曜日・祝日・第3土曜日

創業60年と長い歴史を持つ、地域に根差した鮮魚店です。新鮮な刺身が美味しいと評判で、鹿野から他の地域に引越した方も買いに来るほど。調理・販売している惣菜も品数豊富になり、人気を集めています。



小林内科医院

太白区鹿野2-4-15
022-248-3063
診療時間/9:00~12:30、
14:00~17:30(水曜日・土曜日午後休診)
休診日/日曜日・祝日

小林内科医院は鹿野や緑ヶ丘、長町の方々が多く訪れる地域密着型の医院です。呼吸器、消化器、循環器などの内科一般のほか、小児科の診療も行っています。「普段の生活で気がかりなこと、気軽にご相談ください」と、小林院長。



鹿野公園

太白区鹿野1-2

近年まで長町市民プールとして利用されていましたが、現在は緑あふれる公園として整備されています。親子が楽しめる大型の遊具のほか、水飲み場やあずまやなど休憩施設も設置され、憩いの場となっています。



鹿野小学校

太白区鹿野2-9-1

鹿野小学校では、多くの史跡を有する学区の特性を活かし、調べ学習や体験学習を行っています。学校、家庭、地域の連携と協力を基盤に、子どもたち一人一人が生き生きと活動する学校を目指しています。

これから住む「まち」②

鹿野地区



古くから続く交通の要所

秋保温泉へと続く国道286号線沿いに位置する鹿野地区は、藩政時代は茶店などが並ぶにぎやかな街道筋でした。現在も、街道が通っていた市道沿いには商店が点在するなど、当時の面影を残しています。また「大年寺」鹿除土手「木流堀」など、歴史の痕跡を数多く残す由緒あるまちです。

JR長町駅、地下鉄南北線の長町駅や長町南駅には徒歩でも行けるほか、利用できるバス停も近いことから、仙台市中心部へのアクセスも抜群。また仙台三桜高校や長町中学校、鹿野小学校などの教育機関がコンパクトに集結するほか、近隣に大型の商業施設などもあり、老若男女問わず生活しやすいエリアとなっています。

そんな鹿野地区に二〇一三年度末完成する復興公営住宅は、エリア内の地形の特徴でもある、ひな壇状を利用した設計となっており、高低差を解消するために「広場エレベーター」や「スカイデッキ」などを設置。そのほか障害福祉サービス事業所も併設する予定です。現況としては、工事を安全に進めるための擁壁工事を進めています(五月末現在)。

宮城野区

中野小学校区 復興対策委員会

中野地区四町内会(港、蒲生、西原、和田)が丸となり、復興に向けた活動を行っています。

六月二日(日)定例会議

内容

- 復興事務局から説明と報告
- 委員会からの要請について討議

当日の様子

復興事務局から「田子西地区宅地申込状況」として、募集六十九宅地のうち三十宅地が決定したことと、複数申込十二宅地の抽選と今後の進め方の説明がありました。また、「蒲生北部復興区画整理だより」を月一回程度発行し、情報提供していくことが示されました。また、住民が抱える問題などを再討議しました。この日は傍聴人一名がはじめて参加しました。



問い合わせ先
委員長 高橋貴 022-258-3068
定例会議
毎月第1、第3日曜日16:00~
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

宮城野区

新浜町内会 復興部委員会

安全安心を基本方針に、新浜の復興再建に重点を置いたまちづくりを目指しています。

五月二十五日(土)定例会議

内容

- 防災訓練について
- 町内近況について

当日の様子

六月実施の防災訓練は、下水道路より二本南の道を通って、仙台東部道路方面へ避難した後に岡田小学校へ合流するという、現実の災害時に想定される避難をするこゝとでまゝまりました。また、町内へ戻る住民が増え、夏から秋にかけて在住世帯数が六十近くになる見込みであること、町内の空き地に集まる事業ごみ対策などについて話し合いました。



問い合わせ先
代表 遠藤芳広 090-2020-4002
会合は随時開催
新浜仮設集会所

若林区

荒浜移転 まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

五月二十四日(金)定例会議

内容

- 住宅メーカーの話
- 仙台市からの報告

当日の様子

住宅メーカー二社から、各々の特徴について説明がありました。参加者は熱心に聞き入り、建設費用に含まれるものと含まれないものなど、多くの質問が出されました。仙台市から、田子西地区の申し込み状況や荒井公共区画整理地区の残地状況、市が造成する地区で意見交換会を開催すること、また、個別相談会の開催を七月に予定していることが報告されました。



問い合わせ先
代表 末永薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)
定例会議
第2・4金曜日19:00~
サンピア2F 会議室4

若林区

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。

五月二十五日(土)二十六日(日)
荒浜フォーラムII

内容

- シンポジウム
- グループ討議

当日の様子

今年の「荒浜フォーラム」には、二日間約百五十名が参加しました。初日には、地元住民の中島さんが「荒浜おら浜に住み、里海を守る」と題して話題提供を行いました。二日目は、グループ討議の後、作家の森まゆみさん、地元学実践家の結城登美雄さんなどから、地域コミュニティ継続の大切さや農漁村と都市の結びつきについてお話がありました。



問い合わせ先
代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議
毎週日曜日19:00~
荒井小学校用地仮設住宅集会所

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

若林区

明日の三本塚を 考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

六月九日(日)第八回六郷東部
地区住まい・まちづくり学習会

内容

- 建築専門家による講演

当日の様子

『よい家をつくるには』と題した講演が、(独)建築研究所の岩田司 上席研究員より行われました。住宅メーカーと地元工務店のメリット、デメリットの話や、自然素材を使用した高気密高断熱住宅の紹介など興味深い内容に、参加者は熱心に聞き入りました。また、地元の木材と職人による「つぐつぺおらの復興家づくりの会」から、建築事例の紹介がありました。



問い合わせ先
代表 小野吉信 090-3122-4843
定例会議
会議、学習会は自由参加、随時開催

若林区

東六郷移転推進 協議会

東六郷の浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて先駆的に活動しています。

五月二十六日(日)定例会議

内容

- 用地開発手順の確認
- 口座開設の報告

当日の様子

移転地の開発許可申請と同時進行で測量調査を行うことが取り決められました。会計係からは会の口座を開設したことが報告され、諸経費の振り込みに関しての説明が行われました。また、用地隣に集団移転が決定している井土浜地区の団体と、公園、上下水道などの公共施設やインフラ整備について代表者間での協議を行うことが報告されました。



問い合わせ先
代表 落合義光 090-4882-3368
定例会議
随時開催

住まいの コラム

被災ローン減免制度の利用を もう一度検討しましょう！

東日本大震災によって、自宅や家財を失った方々の生活再建を支援する目的で始まったのが、「個人債務者の私的整理に関するガイドライン」(以下、被災ローン減免制度)の制定とその運用でした。

同制度の運用開始から二年を迎えようとしておりますが、支援の目的である債務整理の成立件数は多くありません。そこで、被災ローン減免制度の活用を改めてお知らせします。

「二重ローン」ではない方も

「二重ローン」という言葉から、今までの住宅ローンに加え、新築するためのローンを上乗せする場合を想像する方も多いと思います。しかし、この制度は、必ずしも新規にローンを組んだ場合だけではなく、ローンが残っている全ての方が対象となります。復興公営住宅を希

望している方も、ローンが残っている場合には、減免される場合もありますので、ぜひ相談してみましよう。

運用側も変化している

この制度は、運用に伴って少しずつ改善されてきました。運用当初は、制度の適用に厳しい判断を受けたケースが多かったようです。まだ問題を抱えていますが、徐々に利用条件が緩和されています。

金融機関からのダイレクトメールで、同制度の相談を促すお知らせが届いた方もいます。制度を運用する側の法律家や金融機関にも、より多くの被災された方々を支援すべきとの判断が出てきた結果です。同制度の運用開始初期に適用対象外と判断された方も、もう一度相談してみたいかがでしょうか。

かけがえのない仲間たち

震災の影響で、住む場所や旧知の友人たちと離ればなれになってしまった皆さん。生活が落ち着きつつある今、以前の絆を取り戻したり、新しい仲間との友情を育んだりしながら、心安らぐ交流の輪を広げています。



代表の金子満江さん(前列右から2番目)、遠藤米子さん(右奥)



仲良しグループ 乙女会

「一人では泣くことすらできなかった。皆と出会って、笑えるようになったの」

「昔は乙女だったのよ」と、名前の由来を語ってくれた「乙女会」の皆さん。会員は六十代〜八十代の十八名の女性たちです。皆で定義山参りや温泉旅行、山菜採りなどをしています。「皆、石巻市とか気仙沼市とか、仙台市外出身でこっちは分らないでしょ？ 私は地元だから案内しているだけ」と、代表の金子満江さんは話します。

グループ結成のきっかけは、泉区役所が開催した「泉集いの会」という借り上げ民間賃貸住宅の方を対象とした催しでした。会の終了後、食事をともにした皆さんは意気投合し、「集いの会以外でも皆で集まろう」と、乙女会を立ち上げました。

「土地勘もなく不安だった。乙女会がなかったら今も一人で悶々としていたかもしれない」と、遠藤米子さん。「金子さんのおかげよね」と、誰からもなく声があがると、金子さんははにかんだ笑みを浮かべました。

「乙女会」では、今後も予定が目白押しです。乙女たちは活発に活動をしていきます。

フットサルチーム progreso FC 「ボールを追いかける仲間との時間が楽しい」

フットサル エフシー



佐藤護さん(右)



代表の後藤信秋さん(右)

青空の下、元気な姿でフィールドを駆け回る面々があります。宮城野区南蒲生地区の子どもの会の保護者らが中心となり活動するフットサルチーム「progreso FC」の皆さんです。チーム名はスペイン語で「前向き」「進展」を意味します。

「震災後、少しでも前向きに仲間との時間を楽しみたい」との思いから活動がスタートしました」と語る代表の後藤信秋さん。現在メンバーは男女合わせて約二十名を数え、中には親子で参加している方もいます。

活動は日曜日の週一回。岡田小学校での練習やコートを利用して練習試合などを行います。

「この時だけはすべてを忘れて、仲間と楽しく過ごせます」とメンバーの佐藤護さんは話します。活動中はほとんど休むこともなく、全員がただひたすらボールを追いかけています。

フラダンスグループ さわやか班

「練習が終わったあのお茶飲みも楽しいのよね」

太白区あすと長町仮設住宅の集会所で、軽やかな腰つきでフラダンスを踊る「美女」軍団がいます。仮設住宅に住む女性たちが集まり結成した「さわやか班」です。現在は約十名のメンバーが所属。イベントでの踊りの披露はもちろん、フラダンスを通し、ほかの仮設住宅に住む方たちとの交流活動にもいそしみます。

「大勢の前で初めて踊りを披露したのは、昨年の夏に



赤間順子さん(右端)、鈴木弥生さん(左端)

この仮設住宅内で行った夏まつりでした」と振り返るのは、グループで唯一のフラダンス経験者の赤間順子さん。

「赤間さんに振り付けを教えてもらいながら、皆で楽しく練習したわね。本番で踊った時は本当に気持ち良かったわ」と、メンバーの鈴木弥生さんも話します。

夏まつりは今年も参加する予定。「昨年以上の踊りを見せたい」と、メンバーは日も練習に励みます。

福島ママ友グループ ふくしま絆ピーチ会

「同じ出身・境遇だから 共感し合えるんです」

「ふくしま絆ピーチ会」は福島県出身のママ友グループ。のびすく泉中央で月二回、茶話会を開催しています。会場となっている多目的室にはお母さんたちの楽しい笑い声と子どもたちのにぎやかな声が響き、和気あいあいと活動しています。きっかけは被災した乳幼児対象限定イベントでした。対象地域限定ではありませんでしたが、偶然にも参加者は全員福島県出身の方でした。偶然にも参加者は全員福島県出身の方

「同じ出身の方と出会う機会がなかったから、今後も会いたいと思ったんです」と設立当時のメンバーである遠藤さんは語ります。「他にもママ友はいるけれど、同郷の人だと震災のことも含めて何でも話せるから、気が楽なんです」と、メンバーの一人、近藤さんは笑顔を見せていました。「ふくしま絆ピーチ会」加入希望の方は022-772-7341（のびすく泉中央）まで。



モトクロスバイクグループ チーム飛龍

「これからもずっと 続いていく仲間」

三十数年前に宮城野区蒲生で、養魚場の山口文雄さんを中心に、近所に住むオートバイ乗りが自然と集まって出来た「チーム飛龍」。十数名のメンバーは月に二回ほど集まり、林道走行に情熱を傾けてきました。八十年代には北海道でのエンデューロレース大会に参加することもありましたが、泉から菜山や鳴子方面へ抜けるのが現在の活動の中心です。震災で流失したチームのバイクは四台。「津波で流されたけど、このバイクだけ戻って来たんだよ」と笑うメンバーもいます。活動再開は昨年八月。中心メンバーである加藤常夫さんが「走ることはストレスの解消と復興に向けての活力」と話せば、「走ると何もかも忘れて気持ちが入る」と、十代からバイクにまたがる平山勝行さん。「ずっと大事な仲間。これからもね」とほ笑む黒澤郁夫さんです。



平山勝行さん(左端)、加藤常夫さん(左から2番目)、黒澤郁夫さん(右から3番目)

まつら きつなまいおろしまつら
すずめ踊り祭連 絆舞卸町雀祭連

「すずめの家族と 仲良く楽しく踊りました」

今年の仙台・青葉まつりで張り切っていたのが、若林区卸町五丁目公園仮設住宅に住む皆さんとその家族や友人が集まってできたすずめ踊り祭連「絆舞卸町雀祭連」でした。ちよつとすまして踊っていたのが津田ふみ子さんです。「日本舞踊をやっていたけど、すずめ踊りの激しい動きは難しいです。でも、仮設住宅の仲間と踊るのは本当に楽しいですよ。もう、すずめの家族です」と、汗を拭く津田さんでした。横笛を担当した松木弥恵さんはご主人と息子さんと一家で参加しました。「フルートの経験があったから笛を担当しています。観衆からの声援に励まされて、二日間無事にやり遂げました。応援してくださった皆さん、ありがとうございました」

「絆舞卸町雀祭連」のすずめたちが、観衆と笑顔を分け合った二日間でした。



松木弥恵さん

津田ふみ子さん

同郷グループ 鳴瀬サロン

「ここに来ると、 やっぱり安らぐんです」

東松島市鳴瀬地区の方々。二年が過ぎても、なかなか今地域に馴染めない」皆さんにとつて、心情や境遇を分かち合える同郷の方との交流は何者にも代えがたいもの。「ここに来ると楽しい」「安らぐ」との声に、事務局側も元気づけられます。地元から参加問い合わせが入るなど、今では地域をつなぐ架け橋となっています。「鳴瀬サロン」へ参加希望の方は、080-556219218（事務局・高橋）まで。



U
みきちゃんストラップ



Q
シュシュ2つセット



M
ベスト



I
ひまわりアクリルたわし



E
福ちゃん



心がこもった作品を一挙公開!
仙台市内の手づくりグループによる
紙上作品展

V
つるし雛



R
かごバッグ



N
刺し子

J
あすと焼き



F
復興かめ

A
大枝ちゃん

B
テッシュボックスカバー



W
布製おもちゃ



S
幸せを呼ぶ帽子



O
復興ふうせん(6連)



K
絆の貝



G
えんがわキャンドル キューブ(大)



C
伊達な福



X
貯金箱



T
まごころ



P
ドイリー2枚セット

L
あづま袋(小)



H
オリジナルお守



D
花のしおり・ひまわり



M ● 港南西仮設編み会 1000円 ● 布小物、編み小物 ● 外部委託 4 宮城野区 ● 無 ● 022-258-3281 (中島) N ● 支えあいセンターあおば 手芸クラブ 1 非売品 ● 布小物 ● 非売 ● 青葉区 ● 有 (借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方のみ) ● 022-217-7234 (支えあいセンターあおば) O ● 仙台市若林区なな色会 300円 ● 折り紙作品 ● 「ReRoots ボランティアハウス」(若林区)、「日本基督教団東北教区被災者支援センターエマオ」(青葉区)、「JR東日本東北サービス(株) 仙台営業支店 絆〜がんばろう東北〜」(青葉区) ● 若林区 ● 無 ● 022-282-2686 (大学) P ● つぎはぎすっぺ茶 500円 ● 布小物、編み小物 ● 「茶房・藤」(宮城野区)、外部委託、注文販売 4 宮城野区 ● 有 ● 090-2028-6498 (庄司) Q ● フェリシモ内職登録者グループ 1500円 ● アクセサリー ● 通信販売 4 宮城野区 ● 無 ● 090-2028-6498 (庄司) R ● 糸あそびの会 1 価格未定 ● 編み小物、織り小物 ● イベント、パザー、外部委託 4 太白区 ● 有 (あすと長町仮設住宅、周辺の借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方のみ) ● 090-9072-2160、iroha@mf.biglobe.ne.jp (庄子) S ● 六郷手作り手芸の会 1 非売品 ● 布小物、折り紙作品 ● 非売 ● 若林区 ● 有 ● 活動場所の六郷市民センターに直接お越しください T ● 岡田西町たんぼほの会 2100円 ● プリザーブドフラワー ● 「日比谷花壇」各店 4 宮城野区 ● 無 ● 非公表 U ● JR南小泉仮設内エコたわしクラブ 500円 ● 編み小物 ● JR南小泉アパート仮設住宅集会所、愛媛県宇和島市道の駅「きさいや広場」、東京都内愛媛県アンテナショップ、イベント、外部委託 4 若林区 ● 有 (被災された方のみ) ● 090-4630-8899 (大久保) V ● チョコットはぎれの会 1800円 ● 布小物、ストラップ ● イベント、パザー、外部委託 4 宮城野区 ● 無 ● 090-7335-8262 (佐藤) W ● ちくちく工房 1 非売品 ● 布小物 ● 非売 ● 泉区 ● 有 (借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方のみ) ● 022-772-5755 (支えあいセンターいずみ) X ● 福田町南仮設編み会 1000円 ● 編み小物、ストラップ ● 福田町南1丁目公園仮設住宅、イベント、外部委託 4 宮城野区 ● 無 ● 022-259-0731 (仙台湾波復興支援センター)

A ● 若松会 1 価格応相談、注文販売 ● 木製品 ● イベント、外部委託、注文販売 4 若林区 ● 無 ● 022-285-7155 (若松会) B ● 岡田西町縫い編み会 400円 ● 布小物、編み小物 ● 岡田西町公園仮設住宅、イベント、外部委託 4 宮城野区 ● 無 ● 022-259-0731 (仙台湾波復興支援センター) C ● チームはぎ 500円 ● ストラップ ● 「喫茶エルガー」(宮城野区)、外部委託 4 宮城野区 ● 無 ● FAX022-355-2425 (仙台湾背後地6号公園仮設住宅集会所) D ● myrtle (マートル) 450円 ● 布小物 ● 「ザ・モール仙台長町1Fアウトドアスポーツ館」(太白区)、スマイルマルシェ(7月14日/たいはっくる)、イベント、注文販売 4 宮城野区・若林区 ● 有 ● 080-5227-8502 (マートル事務局) E ● はまなす蒲生・港の会 300円 ● 布小物、編み小物、ストラップ、木製小物 ● 「東北ろっけんパーク」(青葉区)、「たなばたけ」(宮城野区)、イベント、パザー、外部委託、注文販売 4 宮城野区 ● 無 ● 022-259-0731 (仙台湾波復興支援センター) F ● 鶴亀会 300円 ● 布小物、折り紙作品、ストラップ ● イベント、通信販売 4 若林区 ● 無 ● 080-3194-8439 (最知) G ● 一般社団法人パーソナルサポートセンター 500円 ● キャンドル ● 一般社団法人パーソナルサポートセンター事務所(青葉区)、コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」(太白区)、注文販売 4 太白区 ● 有 (受注状況による) ● 022-395-6258 (就労支援部就労準備課) H ● 内職クラブ 300円 ● 木製小物 ● イベント、外部委託 4 太白区 ● 無 ● 非公表 I ● 荒浜移転まちづくり協議会女性部 あらはま 250円、販売は100個から ● 編み小物 ● 外部委託 4 若林区 ● 無 ● 非公表 J ● 陶芸愛好会 200円 ● 陶芸品 ● イベント 4 太白区 ● 有 (粘土代がかかります) ● 090-1064-9764 (門馬) K ● 日辺仮設住宅趣味の会 400円 ● 布小物、折り紙作品、ストラップ ● イベント、通信販売 4 若林区 ● 無 ● 022-289-3436 (阿部) L ● 卸町5丁目公園仮設住宅手作りクラブ 600円 ● 布小物、和紙作品 ● イベント、通信販売 4 若林区 ● 有 ● 090-774747ded7krfv@softbank.ne.jp (齊藤) 掲載リスト(グループ名 ● 販売価格 ● 作成する作品ジャンル ● 販売場所 ● 活動場所 ● グループ加入希望者の受け入れ ● グループ加入や作品についての問い合わせ先)

被災地レポート

取材地

多賀城市市街地エリア／福島県南相馬市エリア

多賀城市市街地エリア



①市役所6階から眺めた市内沿岸部方面②3年ぶりに復活したあやめまつり(写真提供:宮城県観光課)③産業道路沿いの「みやぎ復興パーク」④創業38年の「藤むら」は人気のお弁当屋さん⑤話題のイベント「月の市」。次回は8月24・25日に開催します

宮城県内の沿岸部などから移転・転居して仙台市に暮らす方々から「自分が住んでいた地域は今どうなっているんだろう?」という声が多く聞かれました。そこでこのページでは、各地の現在の様子や、再開した地域のお店などをお知らせします。

史都の復興はハイテクがけん引 復興は、元気印の多賀城市民から

史都の顔を持つ多賀城市は、沿岸部が震災による津波被害を受けました。しかし、幹線道路やJRの復旧に伴い、街にぎわいが、企業に活気が戻ってきました。

JR仙石線多賀城駅周辺を訪ねると、駅舎の改装や線路と道路の立体交差化が進むなど、駅前の様子も新しくなりつつありました。①

また今年も、市民が待ち望んでいた多賀城跡あやめまつり②が三年ぶりに開催され、多くの市民や観光客がやめ園を訪れました。

多賀城のもうひとつの顔は、工業のまちです。ソニー仙台テクノロジーセンターの敷地内には「みやぎ復興パーク」③があります。被災した地元の企業や産学連携の研究開発企業など現在二十二団体が、事業を再開したり、新技術の開発に取り組んでいます。

町前三丁目に誕生した「多賀城復興横丁わいわい村」④は、被災した商店や会社のために設置された仮設エリアで、現在二十三のお店や企業が事業の再開に励んでいます。会社帰りの憩いの場であった飲食店が復活したり、人気のお弁当屋さんも再開するなど、待ち望んでいた市民を喜ばせています。

年四回開催される「多賀城月の市」⑤は、市民の有志が立ち上げた復興イベントです。回を重ねるごとに知名度も上がり、市内外から楽しみに集まるお客さんでにぎわっています。月の市実行委員の並木貴憲さんは「多賀城に活気を呼び戻すためには、地元市民が動かなければ」と、思いを語ります。

多賀城市からのお知らせは、ホームページなどで提供しています。詳しくは <http://www.city.tagajima.yagi.jp/> でご確認ください。



多賀城のもうひとつの顔は、工業のまちです。ソニー仙台テクノロジーセンターの敷地内には「みやぎ復興パーク」③があります。被災した地元の企業や産学連携の研究開発企業など現在二十二団体が、事業を再開したり、新技術の開発に取り組んでいます。

地域の拠り所、人の集う場所へ

福島県浜通りの北部に位置する南相馬市。東日本大震災後、市外へ避難していた方々も徐々に帰還し、人口は回復傾向となっています。

少しずつにぎわいを取り戻しつつある市内①を訪れました。鹿島区の仮設商店街「かしま福幸商店街」にあるラーメン店「双葉食堂」②は、六十年以上小高区で営業してきた人気店でしたが、震災後、危険区域に指定されました。一時は再建を諦めていた店主の豊田英子さんですが、常連さんはじめ、再開を望む多くの方の後押しで再開しました。

現在は地元のお客さんも多く訪れ、おいしいラーメンに舌鼓を打つのはもちろんのこと、懐かしい面々の再会の場所としてもにぎわっています。

次に訪れたのが、原町区に昨年開園した「ふくしまインドパーク 南相馬」

③。子どもたちが安心して遊べる屋内施設です。人工芝が敷かれた室内には遊具のほかに白砂を蓄えた砂場も設置され、週末には多くの親子連れが訪れる人気スポットとなっています。

市役所内の放送ブースから情報を発信する臨時災害放送局「南相馬ひばりエフエム」④。モニタリング検査結果や内部被ばくの解説番組、行政情報はもちろんですが、最近市内の身近な話題やパーソナリティのフリートークも人気なのだそう。ネット配信のサイマルラジオから全国リアルタイムで放送を聞くことができます。

そして南相馬といったら欠かせないのが「相馬野馬追」⑤。千年以上の歴史を持ち、市を代表する一大イベントです。今年も七月下旬の三日間開催され、復興へ向かう街を盛り上げます。



福島県南相馬市エリア



①駅前通りから原ノ町駅を望みます②豊田さん(中央)とスタッフの皆さん。和やかに営業中です③遊具は季節ごとに入れ替えられ、いつ訪れても飽きません!④パーソナリティの掛け合いが評判です⑤野馬追の見せ場、甲冑競馬(写真提供:南相馬市)

交流サロン

和み・かたらいん茶話会

主催/支えあいセンターわかばやし

- 7月25日(木)10:00~12:00
- 若林区中央市民センター別棟 和室4・5(若林区保寿院前丁3-4)
- 対象/東北沿岸部で被災し、若林区の借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方
- 内容/茶話会(参加無料)
- 要申込(はがき案内による電話申込)
- 問・申込/支えあいセンターわかばやし TEL:022-781-0559
- ※他にもさまざまな方を対象としたサロンを開催。詳しくは中核支えあいセンター(TEL:022-217-7234)まで

きびたん'sいずみ

主催/一般社団法人マザー・ウイング、のびすく泉中央

- 7月10日(水)10:30~12:30
- イズミティ21 2階和室(泉区泉中央2-18-1)
- 対象/震災で福島県から転入してきた乳幼児親子
- 内容/お楽しみイベント(参加無料)
- 定員/12組 要申込(電話または直接)
- 問・申込/のびすく泉中央 TEL:022-772-7341
- ※7月17日(水)10:30~12:30は七郷市民センター1階和室にて「きびたん'sわかばやし」を開催します。対象、内容、申込は上記と同様です

宮城・岩手沿岸部交流会

主催/青葉区家庭健康課

- 7月30日(火)10:00~12:00
- 青葉区役所2階(青葉区上杉1-5-1)
- 茶話会(参加無料)
- 対象/宮城県・岩手県沿岸部で被災された方
- はじめて参加される方は要申込(電話)
- 問・申込/青葉区家庭健康課 TEL:022-225-7211(内線6785)

ふくしまほっこりカフェ

主催/ふくしまほっこりカフェ実行委員会

- 毎週火曜日 10:00~12:00 休/8月13日
- ハート&アート空間 ビーアイ(青葉区立町20-11 ミカミハウス2階)
- 対象/福島県から避難されている方、福島県に思いを寄せている方
- 内容/茶話会など(参加無料)
- 毎月4週は「みんなで作ってほっこり食堂」(参加費500円)
- 前日まで要申込(電話・FAX・メール)
- ※子ども参加の場合は人数と年齢を明記
- 問・申込/ハート&アート空間 ビーアイ TEL:022-262-2969 FAX:022-262-2975
- メール:zoukabako@gold.ocn.ne.jp
- 7月7日(日)10:00~14:00同会場「七夕☆ほっこりフリマ」を開催します

移動お茶会

主催/名取市サポートセンター「どっとなとり」

- 7月12日(金)10:00~11:30、19日(金)14:00~15:30、26日(金)10:00~11:30
- 若林区中央市民センター別棟(若林区保寿院前丁3-4)
- 対象/名取市で被災され現在若林区にお住まいの方
- 詳細は要問い合わせ(参加無料)
- 申込不要
- 問・申込/名取市サポートセンター「どっとなとり」TEL:022-797-2501

続ける支援

仙台POSSEの「送迎支援バス」

東日本大震災から二年。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々がいまいます。地域に根づいて支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

行きたい場所へどこへでも 仮設住宅発着の送迎支援

「森君、ちょっと区役所まで行きたいんだけどいいかな」。宮城野区にある仙台港背後地六号公園仮設住宅の駐車場。五月半ばの昼下がり、仮設住宅の住民向けに運行している無料送迎バスのスタッフ森進生さんは、近付いてきた住民からおもむろ



発車5分前、添乗員森さん(左)とドライバー武沢さん(右)が運行ルートを打ち合わせします

に声をかけられました。送迎の依頼です。二十三歳の森さんは、東京に本部があるNPO法人POSSEの仙台支部の一員。仙台POSSEは、宮城野区の仮設住宅六カ所の住民を対象に、送迎支援を行っています。バスやワンボックスバンなど車両四台を使い、住民の求めに応じて送り迎えします。森さんは、POSSEの送迎支援事業のリーダー。運行経路の調整から添乗員まで何でもこなします。

「乗車の予約は、数日前からでも発車の直前でも、いつでも承ります」と森さん。行先は、スーパから役所、病院などさまざま。片道三十分以内の場所であれば、どこでも送り届けてもらえます。時には十名を超える乗客一人一人の希望を取りまとめ、添乗員とドライバーがその場で運行ルートを決定します。

バスは、目的地のまさに目の前で乗客を送り届けます。「帰りも電話一本で十分足らずで迎えに来てくれるのよ、皆うんと使っているわ」。利用者の女性が笑顔で話してくれました。

「住民の皆さんが、本当に必要としている手助けは何なのか、常に考えるような心がけています」と森さんは言います。「今日は少し運動がてら歩きたい」とか「周りの人に行き先を知られたくない」と申し出る利用者には、目的地から離れた場所で停まるなどの配慮を忘れません。



買ってきた野菜を玄関までお届けします

仮設住宅に住む方のニーズに 応えるかたちで支援を開始

「POSSEの皆さんには、避難所から引越すときにお世話になったんだ。年寄りの力だけではどうしても厳しかったから助かった。それ以来長い付き合いだし、安心して頼れるよ」。区役所へ向かうバスの中、乗客の男性はPOSSEへの感謝の言葉を口にしました。

や貧困の問題に向き合う若者たちでつくる団体です。雇用の不安定さが社会問題となる中、仙台POSSEも労働相談への対応などに取り組んできました。震災後は避難所での学習支援や、仮設住宅への引越越し支援に力を注ぐようになり、送迎支援も活動の柱としていきます。

支援メンバーと利用者の 間に生まれる信頼関係

震災から半年後の九月に正式に開始しました。今、バスは仮設住民の足となり、彼らと社会を繋いでいます。支援するPOSSEメンバーと住民の間に、さらには住民同士に新たな繋がりをもたらしています。

仮設住宅への転居直後に住民に行ったアンケートがきっかけでした。多く寄せられたのは、「買い物時の移動手段がない」「足腰が弱って通院さえ体力的に難しい」という意見。こうした声を受けて、二〇一一年八月に試験的に送迎バスの運行を始め、



仮設住宅に戻り、送迎バスを降りる利用者。スタッフから優しく声がかけられます

「あのおじいちゃんは毎週通院しているから、今週もちゃんと行ったかな、って心配になってね。お節介と思いつつ、『病院行った?』と、つい聞いてしまうんです。ちょうど昨日行っていたみたいで、安心しましたよ」と、バスに戻ってきた武沢さんはホッとした様子でした。毎週のように顔を合わせる間柄だからこそ、一人一人の利用者にPOSSEメンバーの目が行き届いています。



送迎バスの中で利用者と談笑する森さん。話は弾み、和やかに時が流れます

迎えるバスを出すまで、しばしの休憩時間。ドライバーの武沢潤和さんが、送迎支援を行っている扇町二丁目公園仮設住宅の集会所の脇にバスを停めました。武沢さんは下車するや否や、ある住民に声をかけました。「あのおじいちゃんは毎週通院しているから、今週もちゃんと行ったかな、って心配になってね。お節介と思いつつ、『病院行った?』と、つい聞いてしまうんです。ちょうど昨日行っていたみたいで、安心しましたよ」と、バスに戻ってきた武沢さんはホッとした様子でした。毎週のように顔を合わせる間柄だからこそ、一人一人の利用者にPOSSEメンバーの目が行き届いています。

仙台 POSSE 送迎支援バスの運行ダイヤ
※行先は片道30分以内の範囲で自由に指定可

発着所	曜日	時刻
扇町1丁目公園	月・水・金	10:00 12:00 14:00
扇町4丁目公園	月・水	9:30 13:00
岡田西町公園	火・金	9:30 14:00
福田町南1丁目公園	火	9:45 13:00
仙台港背後地6号公園	火・金	10:00 13:30
鶴巻1丁目東公園	月	10:00 13:30

(上記発着所はすべて宮城野区の仮設住宅内) 2013年4/16更新 (同年5月現在)

【問い合わせ】 022-266-7630 (POSSE 仙台事務局)
送迎バスに関する問い合わせ: 070-6552-1460

だと思えます。送迎支援をする中で、皆さんの声に耳を傾け続けたいです」。森さんは言葉に力を込めます。POSSEはラテン語で「力を持つ」という意味。英語で「仲間」のニュアンスもあります。「能動的に仲間をつくり、行動することで力を持つ」との思いが込められています。心が通い合う送迎支援。POSSEの名前の由来にもぴったりの、人と人を繋ぎ、新たな力が湧いてくる取り組みと言えそうです。

読者の皆さんが普段何気なく思っていることをはじめ、皆さんからのお知らせをお届けするコーナーです。お茶飲みしながら、のんびり読んでください。

●初めて「仙台・青葉まつり」のすずめ踊りに参加しました。踊りはまだまだ練習不足だったけど、沿道からの声援のおかげで最後まで踊れました。一緒に踊ってくれた仲間、そして応援してくれた皆さん、どうもありがとうございました。

石塚晶子さん

●太白区あすと長町仮設住宅自治会主催で草刈りを行いました。年に数回行う恒例行事で、敷地内の雑草をきれいにするだけでなく、犬のフンなどもきれいに片づけます。自主的に参加してくれる方は回数を重ねることに増えています。本当に心強いですね。

飯塚正広さん



●私の周りでは、生活再建について気持ちが揺れ動いている人が多くいように感じます。震災から時間が経過するにつれ、人それぞれの境遇や事情が浮き彫りになってくるから、お互いを思いやり合い交流しないといけませんね。

川名和賀子さん

●今年四月の地震で被災した兵庫県淡路島の小学校へ千羽鶴を寄贈するため、若林区荒浜出身者グループの若松会で鶴を折っています。メンバーのほかボランティアさんも手伝ってください、やっと完成しました。

濱口裕子さん

●若林区三本塚の自宅は、まだ修繕のめどが立っていません。友人の中には、ふるさとに戻らず復興・公営住宅を希望する人もいます。ほかのまちでは復興公営住宅の整備が進んでいるようですが、私たちの六郷ではどのようなのか、はっきりしたお知らせを早く聞きたいですね。

友田紀子さん



い刺激になっています。ご近所の方がお漬物の差し入れをしてくれることもあったりと、アットホームなお店なので、楽しく働いています。

佐藤茂子さん

●宮城野区の少年野球チーム「中野スパローズ」の対戦成績が好調です。中野栄小学校など近隣校からも子どもが入り、仙台市の大会に向けて頑張っています。加入メンバー募集中です。

斉藤 広さん

●昨年に続き、宮城野区高砂一丁目公園仮設住宅の仲間「仮設元気復興会」で、栗原市花山での有機野菜づくりが始まりました。皆がジャガイモの植え付けや草取りで汗を流している間、私は皆さんのお昼ごはんを準備。特製春野菜のポトフをつくりました。その日収穫したワラビは、あく抜きをして仮設住宅の皆さんへ配り喜ばれました。

遠藤怜子さん

●若林区河原町の「セカンドハンド」というお店で働いています。いろいろな人と交流ができて、い

●去年は同じ借り上げ公営住宅（社宅）に住む元農家の佐々木さんと、敷地内にトマトとキュウリを植えました。私は草取りを手伝ったくらいでしたが、たくさん収穫できました。今年も植える予定で、今からとても楽しみにしています。

小松きよ子さん

●プレハブ仮設住宅で出会った皆さんと、ずっと楽しいお茶っこ飲みを続けていきたいと願っています。

大友とえ子さん

ごあいさつ

震災復興 地域かわら版「みらいん」は、復興に向かう仙台市東部沿岸地域の現在の様子、仮設住宅でのコミュニティづくり、生活再建に資する情報などをお届けするために、2011年12月に創刊しました。「みやぎの版」「わかばやし版」「たいはく版」を月1回発行し、これまでに19号をお届けしています。

今号は、住まいの再建の場となる移転先宅地や復興公営住宅周辺の地域情報、新たなコミュニティの創生というテーマも含めた形で、仙台市全域版の「みらいん」をお届けします。

次の一歩を踏み出すための情報紙として。応援の言葉を見つける冊子として。またはほっとひと息つく時の読み物として…。本紙が少しでもお役に立てれば幸いです。

「みらいん」編集部一同



震災復興 地域かわら版 みらいん [20号]

2013年6月19日発行

発行
仙台市

企画・編集

協同組合みやぎマルチメディア・マジック

岡崎裕子
熱海奈穂子/鉦鹿大輔/菊地明彦
齋藤孝之/佐藤有希/芳賀幸子
金子秀樹

印刷

ハリウコミュニケーションズ株式会社

協力

河北新報社

特別協力 (五十音順、敬称略)

阿部助五郎/遠藤惣治/小野実/小野芳治/佐藤芳子
高橋孝蔵/高橋親夫/平山みつ
公益財団法人みやぎ産業振興機構
多賀城市民活動サポートセンター/福島県南相馬市役所

お問い合わせ

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 2-12
「みらいん」編集部
Tel.022-390-5755 Fax.022-390-5756
kawara@mwww.or.jp

表紙のひと

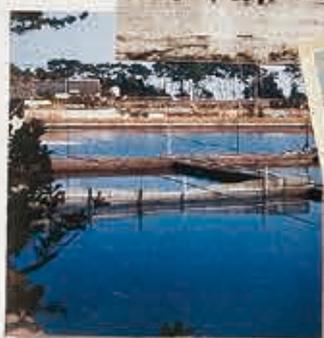
松木波男さん

中学校を卒業して漁師になった若林区荒浜出身の松木さん。陸に仕事を求めたこともありましたが20代後半に再び海へ戻り、ホッキ貝漁、海苔養殖と並行して、今も続けている赤貝漁を始めました。

震災で船を失くし、一時は生きがいを見失って意気消沈した松木さん。しかし、心配した家族が「また漁に出れば活気づくだろう」と応援したこともあり、中古船を購入し再び大好きな海に向かう気力をみなぎらせたのでした。「船が一番近いところへ」と宮城野区の仮設住宅への入居を希望したのも、漁に向かう気持ちの表れからでした。

赤貝漁は現在、風評被害による価格の低迷で厳しい状況に追い込まれています。しかし、「この苦しい時期をどう乗り越えるかが将来に繋がるんだ」と持ち前の根性で前を向きます。

仲間と出荷量を調整しながらの漁も、今は禁漁期間。「閑上ブランドと同じ仙台湾を漁場としている仙台湾産赤貝のことを知って欲しい。検査して問題なく出荷している赤貝を安心して食べて欲しい」と、漁を再開する9月以降の相場の安定を願う松木さんです。



蒲生北部地区

宮城県の海の玄関口、仙台港に隣接する蒲生北部地区は、ハマナスなどの海浜植物が群生し野鳥が訪れる蒲生干潟に、それを一望する「日本で2番目に低い山」といわれる日和山などがある自然豊かな場所でした。また、江戸時代には仙台北下に米を運ぶ水運の要所として栄えた、歴史あるまちです。

一番大きな写真に写っているのは、昭和初期の中野小学校校舎。中央に堂々とそびえるのは校歌にも歌われる、樹齢約400年の杉の大木です。戦後に伐採されたものの、切り株はその後も小学校に展示されていました。演奏の写真は、開校100年を記念して開かれた学芸会。運動会の写真には、1970年代仙台港建設に伴い移転した当時の校舎が写し出されて

います。

下段中央の写真は蒲生海岸の様子。右上は、1950年代に海岸西の松林で撮影された父娘写真です。海岸は1950年代まで海水浴場となっていてシーズン中は人々でにぎわいました。

海岸そばの養魚場では鯉や鰻、鮭などが養殖され、震災前までは鯉と鰻の食事を提供する料理店もありました。左下の写真は平成に入ってから養魚場の様子です。最後に右下の家族写真は1940年頃に撮影された町蒲生の太田さん一家。布団の生地をリメイクしたという着物に、わらの鼻緒の下駄を履いた子どもたち。戦前の質素な生活がうかがえるものの、子どもたちの笑顔が幸せな暮らしぶりを物語っています。

写真提供

写真は蒲生北部地区にお住まいの方と、ボランティア団体「おもいでかえる」(070-5473-3585)からお借りしたものです。「おもいでかえる」は津波浸水地から拾われた写真を洗浄し、展示会などを通して持ち主へ返却する活動を行っています。